

孫道源詩集

冬之卷

中村俊定文庫

文庫 18

1025

4

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3



雅筵醉狂集冬之卷

齋藤藏書

風水軒白玉翁著



○初冬のあそびを

寒風初度開^ル炉^ノ節^{セツ}

莫^{ナカレ}怠^{オコタレ}家^ノ火^ノ用^ノ心^ヲ

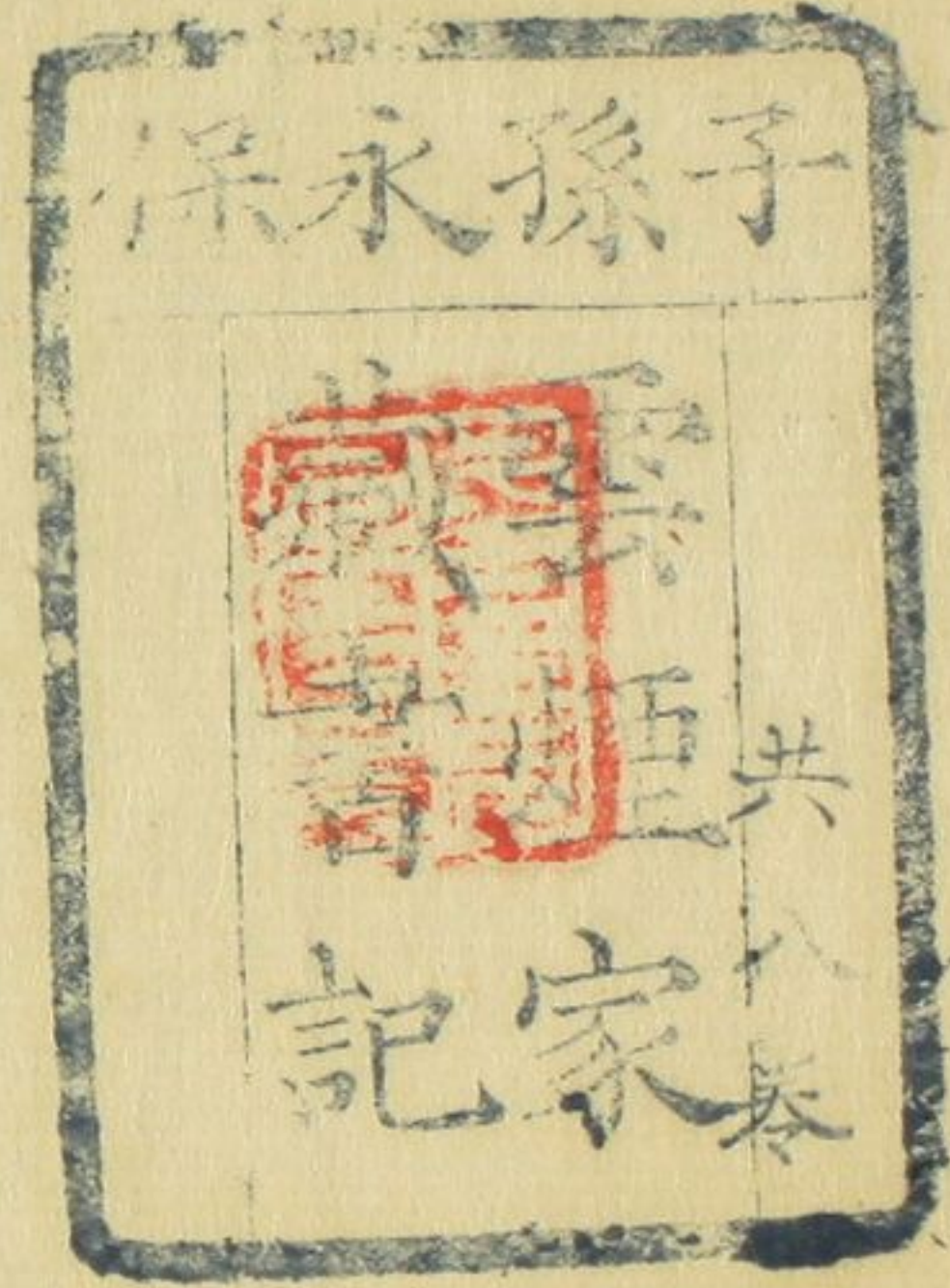
はむし〜くはさるる事と形をそのゆへ何れと
葉一俤〜おるる趣向何れと

○霜

秋光別^リ去^リ莫^レ強^ク惜^ム

千種名^ノ残^リ花^ハ在^リ霜^ニ

○落葉



追ふ^{ヲイ}こゝろ急^イの^イを^イ。此^イを^イの^イよ^イ。為^イ家^イの^イ錦^イま^イれ^イぐ
 又^イ本^イ子^イを^イ家^イは^イと^イ不^イ同^イ賢^イう^イも^イう^イ如^イと^イあ^イひ
 男^イの^イ指^イの^イを^イの^イお^イか^イく^イの^イま^イ多^イ○本^イ家^イを^イ
 智^イと^イん^イと^イら^イお^イ同^イ好^イ誼^イを^イ古^イ老^イは^イ風^イは^イら^イ
 あ^イも^イ急^イより^イ老^イ川^イ村^イを^イの^イわ^イり^イみ^イま^イい^イ
 本^イの^イ急^イせ^イり^イを^イま^イり^イ○後^イ撰^イ集^イ読^イ人^イ不^イ知^イ
 秋^イの^イ秋^イの^イ月^イの^イ影^イを^イ本^イの^イ百^イより^イ為^イ家^イ衣^イ
 と^イ弟^イ子^イう^イづ^イり^イき^イれ^イ○は^イ急^イ子^イ毛^イに^イ衣^イと^イ錦^イ
 と^イい^イ○吉^イ師^イ老^イ鴛^イ詩^イ緑^イ羌^イ深^イ霞^イ刷^イ毛^イ衣^イ

飛^イ上^イ文^イ君^イ舊^イ錦^イ机^イ○字^イ彙^イ羌^イ音^イコ^イウ
 鞆^イ也^イ○活^イ法^イ無^イ名^イ氏^イ鴛^イ詩^イ錦^イ翅^イ雙^イ飛^イ
 去^イ又^イ回^イ○程^イ多^イ程^イま^イれ^イと^イん^イら^イお^イ追^イと
 と^イい^イある^イ人^イま^イう^イと^イ中^イ家^イの^イ為^イ家^イを^イ村^イを^イ
 う^イあ^イら^イひ^イら^イい^イさ^イも^イある^イへ^イ一^イ卷^イい^イよ^イは^イと
 ち^イさ^イち^イあ^イい^イめ^イ何^イと^イ借^イま^イり^イ為^イ子^イ又^イ本^イ子^イ
 仲^イ心^イ也^イな^イら^イよ^イう^イ知^イま^イな^イら^イお^イお^イま^イあ
 ふ^イつ^イま^イう^イそ^イら^イら^イと^イの^イ村^イを^イと^イあ^イれ^イい
 中^イ家^イの^イ村^イを^イか^イか^イと^イ考^イま^イう^イあ^イる^イ海^イを^イ

とを足ぬとつひなきハ難者近レまぬ

木のふちる葉のイヲリ影はありとコ庐山のむくヒひやめて

無可上人詩キニテ聴雨寒更カウツキ畫開門落葉

深シ○樂天詩ニ庐山雨夜草菴中○晉シ

書僧慧遠居サテ庐山東林結ムス白蓮社○

張喬詩キヤウ遠公獨刻蓮華漏ケ註遠法師

作ニ此漏○程介不つしトハ俗子獨トク居

さひしきハなりふハ何ガぬと相ホツと歎ツするの定

せんと意は師ヲをかすハせしハりハ

伊とみたるひ清むる就田川もむじまの糸糸や雨と強飲

古今集物もよ神ちひの山を色り秋ちか

立田川もそぬさいをむらう○百人一首葎

家イはハひハぬハもハあハつハとハもハむハけハ山ハ糸

の錦糸のまふハ○は水のハひハ口ハ決ハみ

は糸秋のやうな物どほちひあありふ

ゆらり糸糸あしトウキ菊キや

○川子糸糸の流きハ方所のハ後ハ子

河糸ハ子ハのハ種ハをハ雨ハりハ糸ハ糸ハやハ志ハがハ見ハたハぬハ麻ハのハかけハ相

百人一首列樹 山深はのあきなる志ありみ
い遠きもやぬおまふたりをまふ

○時雨

池の波本の系松うけ茶のふゆ方と雨ことの時雨
順徳院の系うれうら雨つるもみこと時雨
きくおをあそめ地のさく波○後拾遺
系頼實本の系ちる高をひく方と志記
時雨すりおも志くれおねおも○新後拾遺
集頼実太右左やぬおも方おも雨のふ

時雨うね本の系後の茶の松風○月清
系よりかゝる朝ふの月子雨とさう、時雨は
砂と庭の中川うけ○東坡茶詩颯々
欲作松風鳴○活法無名氏茶詩瀑
雨已随煎煮脚松風猶作瀉時聲○
狂おハ時雨が物あつあるおみ祝とみ大元
世の中子雨とともり事ハすくおく雨とさう
たうたるハ多とゆへを物くをひりく
半の大切なるうけ紙屋よりみてもむ

後とほの字子眼を足一掉一鹿引
の口快致思魚

いばちりのせじ世の夢情レいふ如きレ時雨チシメの多チと也
續後指造集定家いつりのせじ世チより
をり神を月多レてより志チくぬ神チあるレ○
は身ヲを建タテらき一一半イッパイ仰リあツくい有チゆレ記
子コありレとレ今イマももあツぬとといハふ義也

塞 向ラ 橫ハ 時シ 雨レ

詩經塞ニ向ラ 墜キ 戸ヲ ○ 說文塞ニ向ラ 北ニ出ル 牖ト也

○ 又本子於改をびの宿器よさて
あし神樂レのかきひよレととすレとと利チととりレ回
修定ニくク後レるル等ノ本ノ方ノよレとと一一とと利
まマるルふフとととと下シまマるルむムとと○ 和ニるル水ニ時
面ヲたテりレ

○ あアるル人ノ下ニをシてシへレ振マりシきキけケりリふフととのノ家ニはハふフ
ひヒ菜ニ屋ヲをシてシつツとともも也カ葉カ少クさサのノ影ノ下ニはハむム
あアせセむムとと一一とと利チととりレハハ樹ノとと一一とと一一

わくクるル方ノ足ヲあアらラをシてシるルひヒ菜ニ屋ヲ

茶の茶屋ハ茶釜と茶杓とお湯を煮
ゆ片時海とゆ

○時をすり人の茶の湯子招くまじく

さほおもあつそひう種てたぎりうりすけ時々の方記

新甘茶葉 太上毛釜 少の採ヒタリあつそひ

う種くうあんまきく時々の方の種枚

○お茶古記茶釜のよくこまざるゆいあを

さねがら毛きくこまざりみざるみるざる

まじり

○右のねあをゆひひる人うまじくおま

うあく茶の湯をゆいみさるこのをみま

ゆい

いさる火のゆいのひるをゆい及て煮釜の茶を茶

煎昔や集後系極うり火のむいの煮えんのめ

みくあつ茶の里よこま量師は茶伊好相

物のあつゆあく候まじり○お茶ゆいみえ

てとら六百歳茶合よを茶好志をゆつ

きなあつの小茶種よ及くやけ行おま

なまの白やあつ後つは梅のあふきをなま
ひく後ゆり

○ある人雪のあつふ茶のゆとく招さけるふ茶
のあつおも雪の後ゆり

つうのゆも雪ふけさをつる茶の白むか後ゆり
つうハ茶と柳^{カテ}あ後^{スエ}茶ハむのつ子あつり

○又茶のゆも雪のあつり

つあつと茶釜の口よりあつり人むかあつあつたつり
○ある人のあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

○あつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

○人のありき水とおし酒のありき茶をたき

霰^{アラレ}一^ダ綺^キ茶^{チヤ} 當^{アツ}酒^{ジュ}

杜^ツ小山^{コノヤマ}詩^シ寒^{サムイ}夜^ヤ客^{キヤク}来^キ茶^{チヤ}當^{アツ}酒^{ジュ}竹^{タケ}一^{ヒト}炉^ロ湯^ユ

沸^{ワケ}火^ヒ初^{ハジメ}紅^{ベニ} ○字^ジ彙^ヱ綺^キ三^{サン}足^{ソク}釜^{カマ}也^ヤ ○狂

白^{シロ}髮^ヘ酒^{ジュ}を^ヲ垂^ツる^ル子^コ

○霰^{アラレ}酒^{ジュ}

電^{デン}一^{ヒト}散^{サン} 玉^{タマ}一^{ヒト}盃^{ハイ}ノ^ノ篠^ノ

○雪^{ユキ}委^ウま^マし^シく^クと^ト降^フる^ル雪^{ユキ}の^ノ影^{カゲ}

雪^{ユキ}あり^{アリ}重^{オモシ}く^クし^シけ^ケを^ヲ海^{ウミ}に^ニ吐^{ハク}き^キぬ^ヌ。お^オも^モあ^アる^ル雪^{ユキ}の^ノ影^{カゲ}あり^{アリ}し^シゆ^ユ

新^{ニホ}勅^{トク}撰^{セン}集^{シュ}長^{チヤウ}安^{アン}い^イつ^ツも^モあ^アる^ル雪^{ユキ}の^ノ影^{カゲ}あり^{アリ}し^シゆ^ユ

山^{ヤマ}を^ヲつ^ツら^ラふ^フか^カき^キし^シ物^{モノ}は^ハ日^ヒ影^{カゲ}陸^{リク}田^{テン}云^{クニ}雪^{ユキ}

六^{ロク}一^{ヒト}出^デ成^ニ華^ニ電^{デン}三^{サン}一^{ヒト}出^デ成^ニ實^ニ ○兀^ク詔^ニを^ヲ詩^シ

毛^{モウ}花^ハ実^ミお^オ備^ビを^ヲ色^{シキ}造^{ゾウ}し^シは^ハ中^{チュウ}論^{ロン}後^ゴ文^{ブン}

質^{シツ}彬^{ヒン}々^{ゾウゾウ}の^ノ下^カに^ニ蒙^{モウ}引^{イン}の^ノ祝^{ソウ}者^{シャ}を^ヲ考^{カウ}見^{ケン}る^ル

○炭^{スミ}竈^{カマ}

媚^{コヒテ}竈^{カマドニ}煙^{ケムリ}無^{ナシ}絶^{ツツ} 奥^{ウラ}山^{ヤマ} 炭^{スミ}一^{ヒト}燒^{ヤク}翁^ウ

論^{ロン}語^ゴ云^{クニ}與^{ヨリ}其^{コノ}媚^{コヒテ}於^ニ奥^{ウラ}寧^{ニシ}媚^{コヒテ}於^ニ竈^{カマド} ○玉

吟集よすむかぢのきき山燈あくら川民
 の初まよきう紀遠代ち那 ○壺川百首
 佐山あくらをくすむかぢの燈とあくら雪
 げの雪とあくら雪
 ぼろぼろとあくら雪の雪女

伊勢おゆよ富士のふをえれハまらふ
 ハまらふあまハまらふのふをえれハまらふ
 あまらふハまらふハまらふ
 雪のあまらふハまらふハまらふ

破きしを雪やはらぐる陸子紙

きる所や雪のしらふ雪の雪

樂天詩香炉峯雪捲簾看 ○飯白白

所をそりあげらるハあまの雪は燈中子

尺やさかりとらふ花也

舉白雪消酒

東坡詩須當舉白便浮君 注 右白は

雪の名なり酒の下はあ

吉田山のりてまらふ雪谷と白川とかり雪のゆげあ

○雪中の竹を日晷日契と望みぬ六癖一靴て
ねらふまうさけし縁と出控の雪ねまの竹の揺かまは

○雪江の雪一相多らうる所の松よ

○定の松をぬき似る江の水のつぎ松後の雪より雪

謝玄暉詩澄江淨如練○素を後にお

よあり程おいら水白き拍也似き松後と云

一尺の雪と箱也

○雪中の雪

下。雪子雪子ら雪かて足松かめく雪の平のふと

雍陶鷺詩一足獨拳寒雨東○字彙

拳屈羊也○程おいら雪の毛ぬ雪子ゆらゆ

て足をとるまえらぬりある人強く雪中

まは足もほきむとりある雪子松の下陰するゆ

へさるあるまゝとて大浩り一人晒とる

雪少き心ゆたりれ甘き世とて一歩かて松後の人の

古今集に序子傳の甘き世なり雪のつくえを

人の雪のまは嬌かきり

○水仙花

み仙や空よりくさる白雲をうきてさうら玉のさうら

漢武故事云上作^リ露盤^{ハシラ}仙人^{タチ}掌^ニ擎^テ

玉^ヲ盃^ニ以^テ取^リ雲^ニ表^ス之^ヲ露^ヲ和^シ玉^ノ屑^ニ服^シ之^ヲ求^ム

不死^ヲ○王建詩^ニ仙人^ノ掌上^ニ玉^ノ芙蓉^ヲ註

芙蓉^ハ玉^ノ盃^也誠齋錄^ニ云花^ノ單^葉者^呼

金盞^{サシ}銀盃^{ハシト}○狂^ハあ^ハむ^ノあ^ハむ^ノあ^ハむ^ノ因^テく^ハ仙^ノ掌^ニ

の盃^ヲ子^ノ存^スと^リ

水^ノ仙^ノ花^ノ可^ク盃^ニサカツキ

盃^ノの^ツ子^ノ細^キ穴^ヲあ^け指^ヲを^以て^其穴^ニあ

あ^らび^く酒^ヲを^盃に^心仍^く飲^盡さ^給ふ^下

子^をま^ね也^可の^字ハ^文章^ノ上^ノあ^らび^下

盃^ノ字^ハゆ^へ借^リて^盃と^名ば^す用^也ハ

左^ノ花^ノ臺^ノ上^ノあ^らび^且又^下ノ^あら^び也

お^と貴^身一^ノ方^句なり

○人の^孫より^子の^孫の^孫と^あら^び也^仙を^踏き^れい

謝^し

あつ^て記^する^はあ^らび^也又^あら^び也^あら^び也^あら^び也^あら^び也

山^ノ谷^ノ水^ノ仙^ノ花^ノ詩^ニ山^ノ花^ノ是^レ弟^ノ梅^ノ是^レ兄^ノ○

は待子因々山禁いふ仙の名を思ふ人多
 一ハ候きり高奇詩話云今場花即平
 薬花也王介甫以比場蓋場玉名
 取其白耳黄魯直又更其名為山禁
 ○林道春多識編云山禁今案利无
 知也宇計在山城秦寺開白花結实
 如胡椒異名春桂竹依之山谷竹枝
 繁すり小柄いふ仙の見まく山禁いふ仙の
 名とり小義せり上見名と人也むの候時節

の以てあり云むおの三花とり於紫白せり
 相ゆりありり也

○山サ茶ザ花

山一茶花 袋イ袋ク袋フ袋ク

○袖ユ子ノ子

吸ス口の袖の字まつる者子たらぬせといふ今記とり

續日本紀第十二云天平平聖武帝一个
 年十一月丙戌後三位鳥城王後四
 位上佐為王等上表日中和銅元明

号 元年十一月二十五日 御宴

天皇譽忠誠之至白玉按是尊城賜

浮杯之橋勅曰橋者兼字之長人

之所好柳凌霜雪而繁茂葉經寒暑

而不歇與珠玉共競光交金銀以逾

美是以汝姓者賜橋宿祢也下壬辰

詔曰省後三位葛城王等表因知意

趣王等情深謙讓志在顯親辭皇族

之高名請外家之橋姓尋思所執誠

得時宜一依表令賜橋宿祢千秋萬

歲相繼無窮○昔の人の神のまゝとて

る古より方々紀とよみ奉ふも此橋の

下り出たり為徳のまゝ法足公なり号井

手た太極或ハ西院のたむ長

醢をふらとれ指の袖のまが

論語云或乞醢焉乞諸其鄰而與之

○人此作より其のけり方袖の本は賜りまれハ

庭子抄々々

芳乃方の木の皮は庭子神様と云ふ。○
あまふゆゆの雪の字は田ひり

○寒菊 カンキク

寒菊の香をいふ。○

萬葉集第六云 天平八年冬十一月

左大臣葛城王等賜姓橘氏之時

御製歌 聖武 一首 橘花者實 左倍花

左倍其葉 左倍枝 霜雖降益常葉

之樹 ○秋林白枝は 橘の實をいふ

少知ん本帝家抄のいふところなり ○東

坡冬景詩 荷盡已無擎 雨 蓋菊殘猶

有傲霜枝 一年好景君須記 最是

橙黃橘綠時 ○秋の橘の實をいふ

乃くはるがかりの實也 實は下とつひをいふ

ハ道遠況およぼす 秋の實は

秋の星はねむり 百歩の庭とあり 實

隆公のまこと下 橘實をいふ 秋の實は

乃く秋の時の事は 実をいふ

○橋子

右橋のふらふらの。言ふあうて。鞍の奏きむ。行幸も由つ
 堀河百首小歌伴。あやふのむらう。水ののみま
 口金の。物とせし。とせし。守り。○百人一首。子。欠
 佐公小舎。やま。岸の。お。系。と。を。あ。く。今。う。て。ひ。の
 及ゆふ。申。さ。えん。○物。や。い。葉。衣。後。より。出。脚
 せし。其。時。子。歌。の。奏。あり。禁。秘。抄。の。半。根。源
 考へ。ま。る。く
 阪上。の。むらう。の。歌。の。縁。の。縁。の。方。を。ば。ぐ。ら。う。と。の。實。り

禁秘抄殿上、横敷、坤角、柱付、蘇芳、綱
 付、鈴、召、小舎、人、之、時、蔵、人、那、之、是、自
 二、條、院、時、事、也。○物、歌、の、縁、事、は、は
 き、ゆ、ん、ま、り、り、あ

をらと。歌の。実。人。歌。を。る。を。由。つ。か。と。歌。の。ち。り。由。地
 田。信。所。當。附。の。を。清。の。疎。子。を。考。か。ぬ。ゆ。程。あ
 志。より

○千鳥

人。す。く。び。目。さ。ゆ。や。は。と。し。る。を。な。む。す。の。と。考。の。考。の。友

中庸云人^タ一^ニ能^ス之^ヲ已^レ百^ニ之^ヲ人^十能^レ之^ヲ
 已^レ千^ニ之^ヲ○ねあふれちるしといふなとほ
 きうりいふふ神あからむるとそふなやとてい
 るうし記せきと毎夜く社奉反かく是ゆ
 り也

つふを^{○キマラフ}ゆ[○]と[○]か[○]が[○]て[○]山あゐの神香爐[○]よりあや
 定家花鳥のあよふちをかくかきの川原^{ちくちり}の
 ねらふ月ひかりよみぐく山あ井の袖○襪
 長手巾の注ぎよあふ人雪のねよふちを

ゆさむさくかき海の色へけきふふあゆり
 よりをあかくてら^{ニゲ}道法よあゆりよみ
 道^{ミノ}表^{カサ}なきま^カる人^サり^カまり^カ梅^カに^カ我^カより^カ先
 人^カと^カは^カを^カを^カあ^カる^カん^カあ^カる^カと^カ思^カひ^カを^カ知^カせ
 る^カ子^カみ^カま^カぬ^カあ^カ中^カに^カよ^カめ^カる^カを^カ焼^カす^カる^カ
 香炉あ^カり^カあ^カも^カあ^カり^カよ^カる^カ人^カも^カあ^カる^カ
 月^カを^カ香^カ炉^カを^カあ^カる^カゆ^カり^カあ^カる^カ人^カも^カあ^カる^カ
 書^セ儀^ジなり^カと^カき^カより^カ神^カを^カて^カ子^カを^カと^カあ
 を^カあ^カる^カ方^カと^カあ^カる^カ今^カも^カあ^カる^カん^カ所^カあ

しつゝわりのあるより時傳人侍りあはるる千
程の由より子もよりおぼしむあはるる千
をばあしより子もあはるるさへさふ面白
おもしろきをわけ方なれん方よりあ
をばあしより子もあはるるさへさふ面白

○鴨の雄オをうらむ花をうらむ雄の甘き鳥子賦アの
る所の後

雄をうらむ花をうらむ雄の甘き鳥子賦アの
百人一首人丸あし引の山雪のふのあはるる尾

のちしつゝおぼしむるかを好ん

不レ主レ皮ヲ 息カモ 酒

論語云射不レ主レ皮ヲ

飛トスハ 羽ウ 觴シヤウ 鳥ニ 酒

羽觴におよ見たり

福あしつゝのさ煙の火や竹のむらりカモ ねをひかり
甲カモ 酒

○鴛ウ

びらびら地のぬのさやあしつゝと珍なるを

晋書云令狐策夢立チ氷上ニ與ニ氷下ニ人

詔索紈曰冰上為陽冰下為陰陰陽
 事也君復共語君當為人作媒冰津
 而成婚已而太守果因策求張氏女
 仲春成婚○款瑤子冰媒也伊賀惣強
 子也そかくあかごかきみ子なりうきみり
 巾とむすひし物也

連理の枝のちやらさるんねをせむの必のさる根
 塘河海百有六進おとふ思あ事なり
 をるやかげをさるんねの必すしん

なほひ如地ハヤキ〜りせ〜り
 戦國時韓憑一名朋為宋康王舍人
 其妻何氏美王欲之使憑築青陵臺
 而望之何氏作詩曰南山有鳥北山
 張羅鳥自高飛羅當奈何遂有縊憑
 亦死王怒令埋之兩塚相望經宿忽
 見有梓木生二塚上根交于下枝連
 其上有一鴛鴦栖其顛○樂天長恨歌
 在天願作比翼鳥在地願作連理枝

○件この半披神祀より所法書より出く
 同矣所りと交考つて其要は取る。○ねあ
 いをゆ人以翼の類は勿論なり今指しおるな
 神を定て連記もちるるみる根なるよあ
 義也根は連理指しおるるよ

不自由なりよあしつみしう糸のきり紙巻のつじ
 尔雅南方有比翼鳥焉不比不飛其
 名謂之鷦鷯註似鳥青赤色一目一
 翼相得乃飛○之あむるあよりむつあ

すり池のあしつみあのかきゆる年い巻の毛
 衣このあしつみあのかきゆる年い巻の毛
 もあしつみあのかきゆる年い巻の毛
 巻のあしつみあのかきゆる年い巻の毛

○冬の松

冬の松のあしつみあのかきゆる年い巻の毛

淵明詩冬嶺秀孤松○子美詩檻林
 礎日吟風葉○古今註蒼髯叟松也
 ○盧延孫詩吟安幾箇字撚断數莖

鬢ヒゲ ○韻瑞ニ吟鬢トも撫鬢ヲもあり ○狂
翁ハ松ト樹ノめり詩ハおとろく思ひく吟
言ハか風ノ勢ヲさすくハ世ノあそびを
そをそり

○社路の雪の松

頼カクうぬ御ノ所の雪ノの雪ノの松ノ御ニ名ヲをさすハ白ノ雪ノの松
社の路ハ非コト号ヲをさすハあそび也今ハ社ノ路
雪ノの松ノもく知也

○霜乃松

むお糸ハあぢらふ雪ノの白ノ由カニ雪ノの松ノも天ノ青ノが松
晋ノ史ニ云ク阮ノ藉能為ス青ノ白ノ眼ノ見レ禮ノ俗ノ之
士ニ以テ白ノ眼ノ對ス之ニ ○王ノ維ノ詩ノ科ノ頭ノ箕ノ踞ス
長ノ松ノ下ニ白ノ眼ノ者ニ他ノ世ノ上ノ人ノ ○蔡ノ琰ノ歌ニ
為ス天ノ有レ眼ノ分ノ何ヲ不レ見ニ我ノ獨ノ漂流 ○狂
翁ハあぢらふ雪ノの雪ノの雪ノ直下ニ見るトばけら
雪ノの雪ノ下ノにけらハ何ノ事ノも記さス天ノよりむお糸
ハあぢらふ雪ノの雪ノの雪ノ白ノ眼ノをはらハ松ノの標節ハ青
眼ノもく見レるトらハ義也 ○論ノ語ニ歲ノ寒

然後知^ニ松柏^ノ拍^ニ之^後^{オクルラレホニ}彫^也 ○朗詠集十

八^ハ公^ノ采^ヲ霜^ハ後^ニ露^ヲ^{ヲスレ}一^ト千^ニ年^ノ色^ハ雪^ノ中^ニ深^レ ○

彩^ハ古今^ノ集^ノ税^ノ部^ノ成^ノ段^ノ冬^ノの^{そと}く^ハ山^ノと^あら^ハら^ハふ

本^ノの^よふ^りあ^らは^る松^ノと^あま^りま^りさ^ぶら^しき^はあ^も

測^ハぬ^レ得^ズと^回さ^ス也

○蒔^ハ分^ノの^二友^ハあ^る年^ハ小



蒔^ハ分^ノの^二友^ハあ^る時^ハり^ニま^りぬ^レ遠^くと^まり^コころ^ニあ^らは^るみ^たら^し 次

古^ノ今^ノ集^ノえ^方年^ノの内^ニま^りま^りま^りま^りき^ふけ^り一^年を

こ^とと^とく^らい^とい^ふと^もと^とく^らい^ふ

